

蒲生干潟の地形調査②

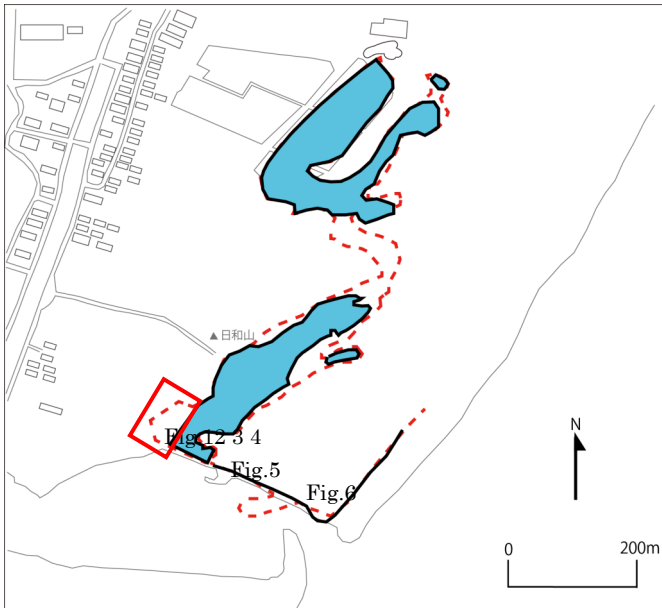


Fig.1 GPSによる簡易測量結果



Fig.4 東側通水部分のようす（北側より撮影）



Fig.5 河口付近のようす（西側より撮影）



Fig.6 海岸線にみられた風紋（南側より撮影）



Fig.2 埋め立てられた潟湖南側（東側より撮影）



Fig.3 中央通水部分のようす（東側より撮影）

調査日 2017年12月15日（金）14：00～15：30
 ※満潮時刻13：08（潮位140cm）

Fig.1で赤の破線で示された部分はGPS簡易測量による11月の汀線，黒の実線は12月のそれである。満潮時間帯の調査にもかかわらず潟湖の水位は全体的に低く Fig.1からもわかるように潟湖の中央部分が大きく分断されていた。Fig.1の□で囲まれた潟湖南側の付近は防潮堤建設工事のため埋め立てられていた(Fig.2)。導流堤通水部分は3箇所とも通水しており，川から潟湖へ水が流れ込んでいた(Fig.3)。東側通水部分にあった巨大な流木は先月同様にあった(Fig.4)。河口付近では右岸の砂州が拡大していた。一方左岸では先月確認された大きな砂州は完全に消滅しており，河口の位置が北側に戻っていた(Fig.5)。海岸線は全体的になだらかになっており西風による風紋がみられた(Fig.6)。

（中田 晋）